

吾妻溪谷

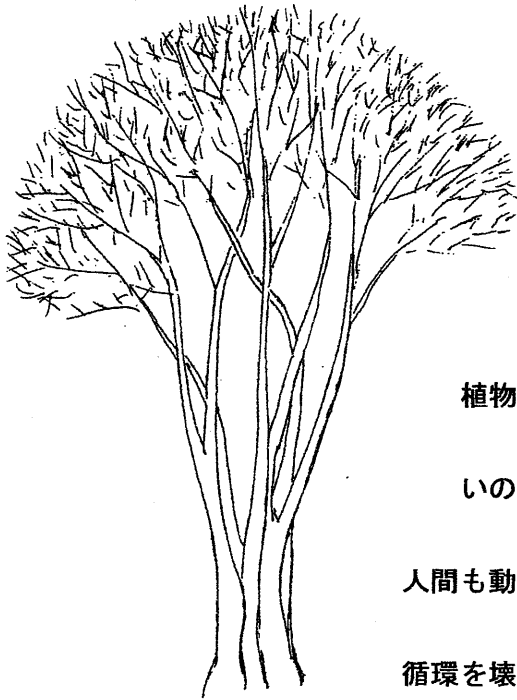
やんば
ハツ場ダム

2004. 4. No. 7

本当の事は単純なはず

いのちの大曼荼羅の中で

利根川流域脱ダム宣言



地球上はいのちの大曼荼羅。

植物は花と新緑にあふれ、鳥たちはさえずり合い、
光に輝いている今、
いのちの、エネルギーの大循環が伝わってくる。

人間も動物も植物も、よく生きよとて生まれてくるはず。
その頂点に立つ人間が、
循環を壊し、いのちを破壊し、共喰いをするような道を、
何故進もうとしてしまうのか。

私たち一人一人の心の中で、
自足と想像力と寛容の領域がもう少し広がったなら、
いのちの大曼荼羅の中で、
人間も、それらしく豊かに生きられるのでは。

ハツ場ダムを考える会
首都圏のダム問題を考える市民と議員の会

舞台 国会

いよいよ登場、国交省

院内 集会

昨年11月、事業費の増案が発表されて以来、首都圏ではそれまで一般に知名度の低かった「八ツ場」への関心がにわかに高まりました。各地の市民団体は12月以降、7回の集会を催し、延べ約700名が参加。中でも2月12日の院内集会では、佐藤謙一郎国会議員（公共事業チェック議員の会事務局長、民主党衆議院議員）のコーディネートにより国交省との意見交換が実現しました。

院内集会で市民側が提起した問題点は主に以下の三点。

- ① 八ツ場ダムの上水の必要性
- ② 利根川の治水計画の現実性
- ③ 奈良県の大滝ダムのようにダム完成後に地質が問題となる可能性

嶋津暉之氏ら市民側は、科学的な分析を踏まえ、八ツ場ダム計画の矛盾点を次々と指摘。佐藤謙一郎議員をして「国交省と市民との意見交換に今までいろいろなテーマで立ち会ってきたが、官僚がこれほど返答に窮する場面は遭遇したことがない」と言わしめるほど熱のこもった論戦が繰り広げられました。

院内集会後、市民側はさらに過去のダム事業費の実績、治水計画の計算の根拠などについて国交省に資料を請求しました（右ページの資料はその一部）。

この間、千葉、埼玉県議会では、八ツ場ダムをめぐって様々な角度から質疑が重ねられましたが、結局は与党の力に押切られる形で、両県とも負担を受け入れることに。

千葉県議会最終日の3月19日、市民側によりやく請求資料が届けられました。回答の内容について嶋津氏は、「今回の回答で国交省の主張がいかにか減なものであるかよくわかった」とコメント。

市民側は現在、国交省と二回目の意見交換を行う準備中。予定のテーマは

- ① 利水について・・・今後の水需要、利根川の不安定水利権
- ② 治水について・・・基本高水流量 22,000m³/秒の妥当性、八ツ場ダムの治水効果、利根川の氾濫と八ツ場ダム
- ③ 八ツ場ダムの完成時期について・・・予算からみた完成時期
- ④ 川原湯温泉街の移転再建について・・・代替地の造成時期、安全性など

地元、群馬県議会をのぞき、関係各都県は負担金受け入れを決定しましたが、同時に6都県は負担減額を要請しました。それを受けた国交省は3月末に「八ツ場ダムに関して意見交換をする機関を設置する」と発表。今後はいよいよ八ツ場ダムの事業主である国交省の判断が問われることとなります。

せいせい30人と思っただけ
100人も
資料が全然
足りませんよネエ。
T.S.

国交省の資料は語る

2010 年度完成は到底無理

ダム事業費

「首都圏のダム問題を考える市民と議員の会」では、ハッ場ダムの事業費について国交省に以下の表の資料を求めた。これは、今までのダムで予算額が大きい例を具体的に示すことによって、ハッ場ダムへの予算投入が現実に可能かどうかを国交省に示してもらうためである。

ダム事業費について

(1)年度予算額

順位	事業名	年度※1	予算額※2 (百万円)
1	宮ヶ瀬ダム	H5	41,750
2	大滝ダム	H10	30,300
3	琵琶湖開発	H元、H2、H3	27,000
4	長良川河口堰	H4、H5	25,000
5	月山ダム	H10	24,818
6	摺上川ダム	H10	24,760
7	滝沢ダム	H14	23,606
8	浦山ダム	H4	23,080
9	富郷ダム	H7	21,889
10	ハッ場ダム	H14	21,499

神奈川県
奈良県
滋賀県
三重県
山形県
福島県
埼玉県
埼玉県
愛媛県
群馬県

- ※1 各事業毎に最終予算額が最大となる年度を抽出。
(期間は昭和61年度～平成15年度)
※2 予算額は年度の最終予算額(共同費)

(2)連続した5か年の年度予算額の合計

順位	事業名	年度※1	予算額※2 (百万円)
1	宮ヶ瀬ダム	H3～H7	162,410
2	琵琶湖開発	S62～H3	126,570
3	大滝ダム	H9～H13	122,953
4	ハッ場ダム	H11～H15	95,999
5	摺上川ダム	H10～H14	89,261
6	滝沢ダム	H10～H14	88,245
7	長良川河口堰	H元～H5	87,040
8	利根川広域導水	H3～H7	85,190
9	徳山ダム	H10～H14	80,499
10	灰塚ダム	H6～H10	80,220

神奈川県
滋賀県
奈良県
群馬県
福島県
埼玉県
三重県
千葉県
岐阜県
広島県

- ※1 各事業毎に連続した5か年の最終予算額の合計が最大となる
(期間は昭和61年度～平成15年度) 期間を抽出。
※2 予算額は最終予算額(共同費)

ハッ場ダムの事業費が4600億円になったのに伴い、2005年度以降の残事業費は2700億円—つまり6年間で2700億円、年間450億円を6年間続けて注ぎ込まなければならなくなった。

資料によれば、今までのダムで単年度予算の最高額は宮ヶ瀬ダムの約1620億円(1991～95年度)。ハッ場ダムの場合は5年間で2250億円必要であるから、宮ヶ瀬ダムをはるかに上回る予算が必要である。しかも1997年頃までは全国のダム事業費が約6500億円あったが、その後は減りつづけて来年度は3800億円になっている。これからは宮ヶ瀬ダムのような予算をとること自体が困難になっている。

ハッ場ダムの完成年度は予定では2010年度となっているが、事業費の面からもこれは到底無理である。

嶋津暉之 (水源開発問題全国連絡会)

。首都圏以外の国会議員も多数参加。
熊本(川辺川)の議員さんも来りてくれた。



埼玉県に公開質問

八ッ場ダムをストップさせる埼玉の会

埼玉県では3月の県議会で八ッ場ダムの事業費変更案が通過しました。

上田県知事は「国交省に追随するだけではない」と、昨年12月、第三者機関による懇話会を設けましたが、懇話会が出した結論は「増額やむなし」。今回の議案通過は、既にこの時に道筋がつけられていたわけですが、「増額を受け入れるが、後で減額を要求する」という県の説明は何とも歯切れが悪く、一般県民にとって納得のいくものではありません。

そこで市民側では2月21日に公開質問書を埼玉県に提出しました。3月29日にその回答がありましたが、なお不明な点が多々あるため、今回再度、公開質問書を提出しました。その中で特に重要な点は以下のとおりです。

1 八ッ場ダムの完成時期について

八ッ場ダムの完成時期は2010年度となっていますが、実際に2010年度に完成させるためには今までに例のない集中的な予算投入が必要で、予算面からみても10年程度の遅れは必至と考えられます。完成時期が10年も遅れば、水需要のピークも過ぎてしまうので、この完成時期は非常に重要です。この件に関して県は「国土交通省が2010年度に完成できると明言している。」と回答するだけで、実際に可能かどうかの検討を行おうともしません。そこで、仮に2010年度に完成させるため、八ッ場ダム建設に予算を集中的に投入した場合(毎年450億円)、埼玉県の毎年の負担額がいくらになるかを計算することを求めました。

2 埼玉県水道の冬期水利権の不可解な負担率引き上げについて

今回の基本計画変更に伴い、埼玉県水道の場合、冬期水利権(冬期のみ取水できる水利権)の毎秒1m³あたりの負担率が1.09%から1.61%へと、大幅に引き上げられています、変更前の負担率のままならば、埼玉県水道の負担額は220億円も減額されます。他の都県の場合、冬期水利権の毎秒1m³あたりの負担率が1%程度であるのに、なぜ埼玉県のみがその1.6倍の負担をしなければならないのか、理解できません。この点に関しては不明朗な回答しかなかったので、負担率1.61%の計算根拠を明らかにすることを求めました。

3 利根川治水計画の妥当性について

先の質問書で、利根川の治水計画は現実性を欠いており、八ッ場ダムの治水面での必要性が希薄であることを指摘しましたが、この件に関して県は「利根川の治水計画は国が立てることになっているから、その妥当性を本県では検証したことがない。」と回答するだけでした。しかし、八ッ場ダムの治水部分だけで埼玉県は180億円も負担するので、検証しないと行って済む話ではありません。そこで、利根川における八ッ場ダムの治水効果について、その数字と根拠データを示すことを求めました。

「案は民主党の埼玉県議団がいろいろと頑張ってくれたんで。昨年末には川原湯温泉にこまり、真剣に八ッ場問題に取り組んでくれましたが、数の力に染…」

ハッ場ダム攻防戦 ~千葉冬の陣~



大野ひろみ

(千葉県議会議員・市民ネットワーク千葉県)

前哨戦

時は西暦 2003 年 11 月、お上からのお達し「事業費倍増」で、わが房^{ふま}の国にもわかに騒がしくなった。

とにかく、事業費増額を議会に上程されたら、圧倒的多数の自民党衆によって可決されるのは火を見るより明らか。環境派知事堂本さんも、ことハッ場ダムとなるとトーンダウン。「千葉は水がないのよね」を繰り返すばかり。「お金もないでしょ？ 知恵もないでしょ？」と混ぜっ返したくなるのをグッとこらえ、反対の意見書、要望書を出し、アピールの記者会見もした。

幸い、12 月県議会では議案は上程されず、無事年を越したが、テキは虎視眈々。

人口予測、波高心

県の言い分は一貫して「人口のピークを迎える 2015 年には水は足りなくなる」。県の推測では、15 年には人口が 630 万~640 万人。今より 30~40 万人もふえるから、40 万人分の水がめとなるハッ場ダムは必要というストーリー。ところが国の人口問題研究所の推測値は 610 万人。しかもそれ以降は減っていく。

しかし驚いたことに、県の担当者は、人口研の数字より自分の数字の方が正しいと言い放った。年金など国の政策は人口研の予測を基にしているんだけど、といくら反論しても、「千葉には千葉の事情がある」。

いろんなすれ違いの中で特に面白かった(?)のは、県がハッ場ダムに参画を決めた昭和 62 年の人口予測。平成 12 年には人口 631 万人以上という超バブリーな予測を立てた。ところが実際の人口は 590 万人。その差ずばり 40 万人!

主戦場にて

さて、本会議が始まり、各会派が次々とハッ場ダムについて質問を繰り返した。

自民党はもちろん賛成の立場の質問。民主党は、湯浅県議が反対の立場での代表質問をした。公明党は特にハッ場には触れず、社民、共産党はもちろん反対の論陣を張る。

そして、わが会派の吉川さん。前夜私の用意した人口予測のグラフを振りかざし、正嶋を射る質問ではあった。もっとも、傍聴席で見えていた人からは、カレンダーの裏紙だというのはすぐ分かったよ、と言われたが…



内堀も埋められる

県議会は数の世界。最大会派の自民党が「クロ」と言えば、シロもクロ。だから、議案が上程された時点で結果は明白。従って、そのあとの土木常任委員会でも、最終日の本会議でも、ハッ場ダムが可決されるのは、長島監督がアテネに行くよりもありえないことは分かっていた。

しかしゴマメは歯ぎしりをするもの。私は最終日に、この議案に対する反対討論をした。

闘いすんで、日は暮れて

千葉県もダム建設へと GO サインを出してしまったが、まだあきらめたわけではない。相撲でいえば徳俵に乗っかっている状態。一発逆転もありえる。それには世論を形成するしかない。

私の住む佐倉市では、ハッ場ダムができると、水道水の地下水と表流水の割合が、今の 65:35 から、30:70 へと逆転する。うまくて安い水が、まずくて高い水になると聞けば、殆どの市民がダムなんか要らないと言う。今後もせっせと世論を盛り立てようと、まずは 5 月に嶋津さんの学習会を開く予定。

現地「上流」社会の皆さんとも連絡を密にして、下流の千葉もがんばります!

三月議会に掛けられるのか？

群馬県の場合

〇県議会への質問〇

国交省との間に戸倉ダムの地元対策という懸案を抱えている群馬県は、ハッ場ダム関係一都五県の中で唯一増額案を受け入れていない。しかし群馬県でもハッ場ダムに水利権を設定しており、東部水道（太田市、館林市、邑楽郡）、県央第2水道（前橋市、伊勢崎市、黒保根村、東をのぞく勢多郡と佐波郡）へ配水することになっている。3月議会では伊藤祐司県議（共産党）が県の水道事業のあり方に疑問を投げかけた。（以下は伊藤県議による質問の抜粋。）

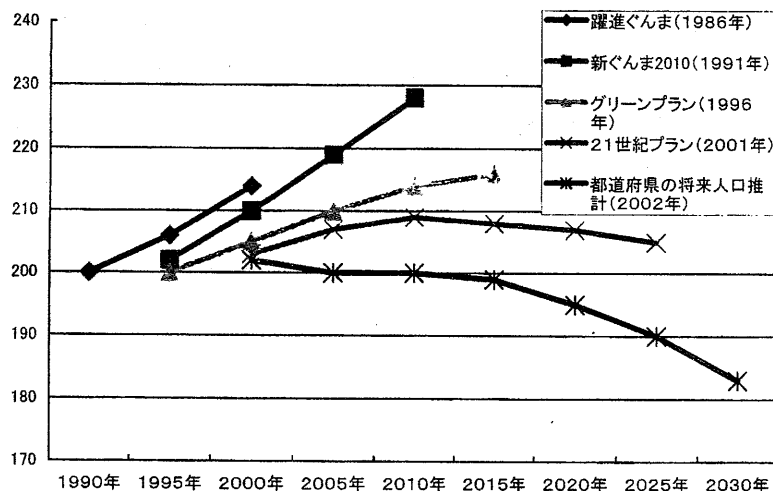


Y. ITO.

◆見直すたびに低くなる人口予測◆

群馬県が5年ごとに立てている総合計画の人口予測をグラフに表すと（表1）、右肩下がりになっているのは明らかだ。県の水道事業に対する取組みは、未だに人口が増え、景気も上昇する右肩上がりの時代に作られた計画に引っぱられている。しかし現実には、1998年と2000年の上水道の供給実績は減少している。もっと科学性をもったしっかりとした見直しをするべきではないだろうか？

(表1)



◆群馬県平野部は地下水豊富な扇状地◆

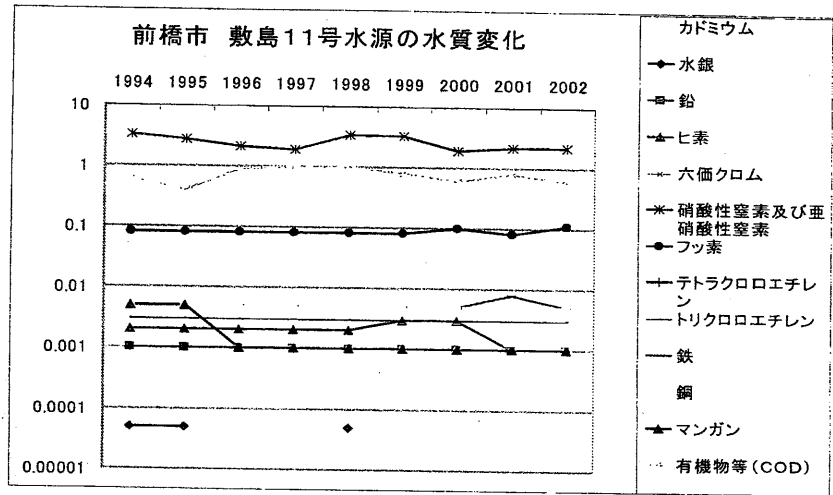
「ハッ場ダムの利水は、現在市町村が独自に持っている地下水源を表流水に切り替えることを前提として進められている。だが専門家によれば、前橋、伊勢崎などの扇状地は200~300メートルの砂礫層があり、地下水が極めて豊富だ。その貯水量はおよそ20億トンといわれ、ハッ場ダム満水時の20杯分になる。

かつては地盤沈下が表流水転化の最大の理由だったが、環境白書を見ると県内の地盤沈下はすでに沈静化して久しく、水源井戸の水位の低下も見られない。水質データを見ても10年単位でほとんど変化はなく（表2：前橋市敷島11号水源の水質変化）、表流水に比べて水質が良い。適正量を使い続けることこそ地下水保全のために重要であると言われている。

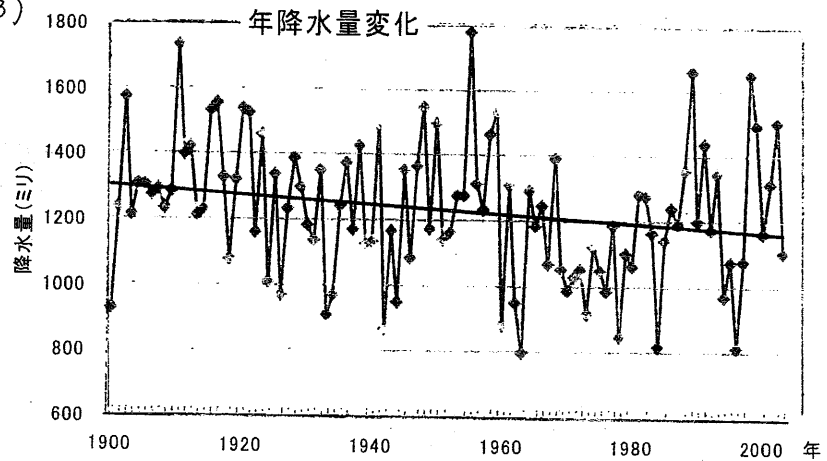
前橋地方気象台のデータを見ると（表3）、関東地方は少雨傾向にあるといえる。このことから表流水よりも安定した水源といえる地下水の保全と活用は、今後の水道事業にとって重要になるのではないだろうか？



(表2)



(表3)



前橋地方気象台のこの100年の年間降雨量の統計とその線形近似のグラフ

戸倉とハッ場

地元の長野県市長が、最近自ら入港して、
ダム現場の視察にまかされたそうです。

さる2月19日、「ハッ場ダムを考える会」事務局は群馬県庁の特定ダム対策課（特ダム課）を訪ねた。特ダム課が手がける2大事業の一つ、戸倉ダム（群馬県片品村）が建設半ばで中止となった今、ハッ場ダムについて特ダム課の対応や如何に？

特ダム課：「戸倉にしてもハッ場にしても国が進めた事業。ところが下流都県が必要としなくなったから中止すると。ダムによる地域振興というバラ色の夢を見てきた地元になれば、どうしてくれるんだということになる。私達は東京や埼玉にとんでいって、何とかしてほしいと頼みましたよ。ところが、ダムの話がなくなったからもう関係ないという。今、国に地元対策を要請しているところです」

ハッ場の会：「ハッ場についても同じ事が起こるのでは？ それに予定地は地すべり多発地帯。奈良の大滝ダムのようにダムを造って周辺住民が住めなくなる可能性を考えたら、このまま国まかせでいいのかと県民は不安です」

特ダム課：「ダムができて特ダム課の事務所はそのまま現地におきます。地すべりが起きたら、その時は対策を立てていくからでも予算を当てるから心配ありません」

ハッ場の会「でも予算は私達の税金から出るのでは・・・？」

ルポ 第一小 裏手斜面を歩けば

長野原第一小学校のある「林地区東原代替地造成工事」は10億3500万円にて、新井組が請負い、山中への進入路、周囲の山の傾斜面へのアンカー施工、盛土、砂防ダムなどの工事に二年間要した。01年9月に造成が完了し、直後より校舎の新築工事が始まった。山を崩し平地にするだけでも計三年間かかった2万㎡の敷地である。

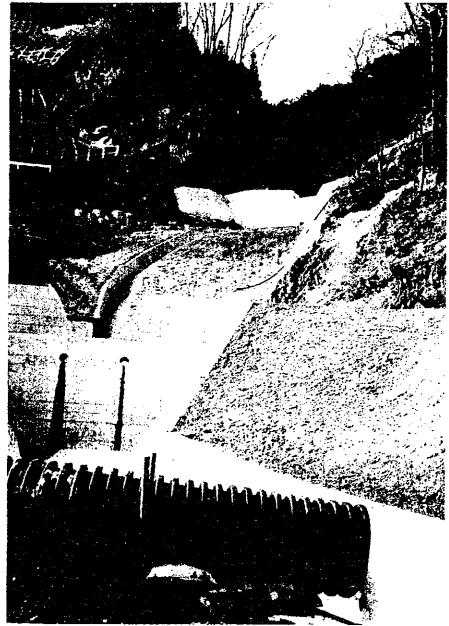
校舎裏手の急峻な防災工事は、次の三形態に大別される。

- ①左側——アンカー設置 ②中央部——防災ダム4基造成
③右側——「折の沢ビオトープ」計画にて開発されつくして、砂防ダムが大小併せ、およそ7基も設置されている。
(※他に問題点も多く今回紹介しきれず、写真も含めて割愛)。

それぞれの頂き・沢筋をたどれば、山肌は極めてもろく、樹木はその岩に堆積した数分の土壌にしがみつくように生え、岩肌とは剥離して、簡単に樹木ごととはがせそうな気配さえある。折の沢川筋の岩はパイ状に剥げ落ちてしまう。岩盤の上を無理やりシートで覆ったような急ごしらえの防災工事にしか、素人目にも見えない。

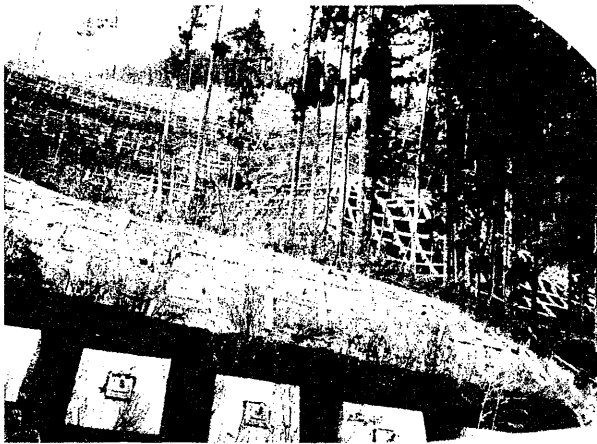
岩肌を縫うように巡らされた水抜ききの大小の導水管は、あたかも手術後患者の身体に張り巡らされた管のように感じられてしまう、異様な光景である。

(撮影日はいずれも2004年2月29日 鈴木郁子記)



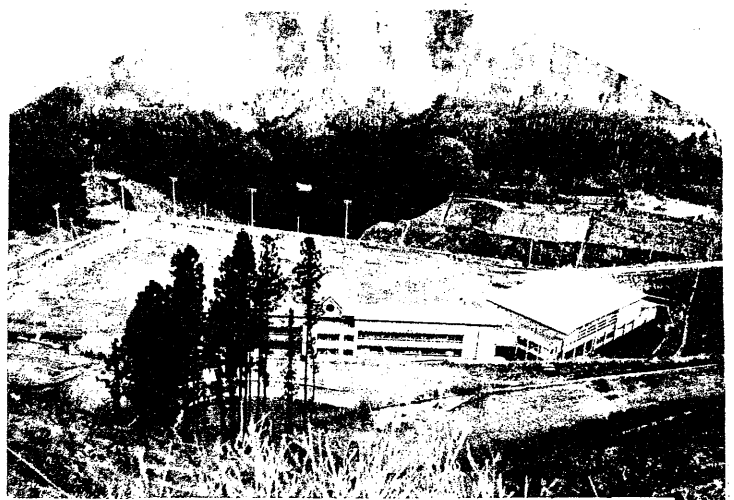
②中央部——わずかな間隔に防災ダムが4基連なるように造成(頂上の死角部分にもう一基ある)。手前は水の導水管。

①山肌を覆うアンカーの群れ



ノリ面一帯には、メーカーと工法の異なる数種類のアンカーが、迫るように施されていて、そら恐ろしい景観である。

杉木立の上方のアンカー内部の陥没部分



アンカー群の最上部から撮影した第一小全景もし、大災害が起きれば、アンカーもろとも柔らかな土砂は崩れ落ち、もろに校舎を直撃するような危険地帯に素人には思えてならない……

※アンカーは、(メーカーにより異なるが)、土中にコンクリートミルクを流し込み通例は20分ほども食い込んでいるので安全性は高いとの由だが……。しかも1基流し込むのにおよそ20分ほど要し、費用も驚くほど高額とのこと(詳細は各社HP等で)

※お詫びと訂正——前号、「八ッ場のおかしな物語」第2回の表題にミスプリントがありました。正しくは、「これじゃ、生活再建できない代替地価格」です。

新たなムムバスター登場!

砂防ダム直下の小学校は危険

— civil engineering の立場から見たハツ場ダムの問題点—

「私は一人の土木技術者として、少しでも多くの方にわが国の公共事業のシステムをわかってもらうために技術的な解析を行っています。

わが国の将来を考えたとき、ムダな公共事業のおかしなシステムを改善しなければ、日本は借金だらけで滅びると痛感しています。

ハツ場ダムに関しては、ダム問題が複雑化しているため、全体的にこうだと簡潔に言うことはできません。しかし、具外的にこれは明らかに問題だと思われることがありますので、述べたいと思います。」

矢部 俊介
土木工学って英語では
civil engineering って
いうんですよ。
市民のために役立つ
工学って。
私は、そういう者にな
りたいんです。

長野原第一小学校

新しく建てられた長野原第一小学校は、近代的で児童が勉強するには良い施設だと考えられる。しかし小学校のすぐ上には建設されたばかりの砂防(防災)ダムが存在する。こんな場所は日本全国広しといえども他に探すのは難しいのではないだろうか?

砂防ダムがあるということは、そこが「危険」だと警告しているようなもので、児童達の安全や将来を考えたものとは到底考えられない。山岳地帯でやむを得ず、この場所しか小学校を移転することができなかつたのであろう。砂防ダム付近は工事が終了しておらず、仮設のままの状態に放置してあり、雨が多いこれからの時期には非常に危険と言えよう。

小学校の背面は山を削り、強引に整地した跡が生々しく、山の削り面のほとんど全面に「のり面保護工」が施してある。「のり面保護」は削り面の崩落を防止するためのものだが、児童たちが遊びで登る危険性もあり、また維持管理を適切に行わなければ崩落することもある。町の教育委員会は、土石流や地すべりが発生する可能性がある場合は、児童を退避させる防災システムを構築していると考えられるが、それにしてもここまでしてダムを建設する意味があるのか、また現地再建を推進する意味があるのか甚だ疑問である。



事務局だより

《署名運動 — 次の締め切りは5月15日》

ハッ場ダムを考える会では12月半ばより署名運動を開始しました。第一次締め切りは2月15日と運動期間はわずか2ヶ月でしたが、集計の結果、「群馬県知事、議会宛」の署名が総計5362筆となりました。内訳は群馬県内2989筆、県外2373筆（東京884筆、千葉519筆、埼玉456筆、栃木174筆、茨城70筆、その他270筆）。

「何十年も東京の水政策に疑問をもってきました。これが最後のチャンスかもしれないと知り合いに頼んで」何百筆も送ってきた方、「沖縄旅行に行った時、珊瑚礁を守る運動をしている人達に説明して」集めてくださった方、「周りはわからないけれど、私たちは反対です」とご夫婦お二人の署名を送ってきた方などなど……。貴重な思いがこめられた署名を2月19日に群馬県知事、県議会各会派に提出しました。

第2次締め切りは6月議会前の5月15日とします。署名を集めてくださった方は、お手数ですが「ハッ場ダムを考える市民の会おた」にお送りください。

なお「国土交通大臣宛」の署名運動も引き続き行っています。提出は少し先になる予定ですが、こちらも是非ご協力ください。2種類の署名用紙は、切り離してどちらか一方だけご利用くださってもかまいません。

<http://yamba.parfe.jp/>

《ホームページ開設のお知らせ》

ハッ場ダムを考える会の新しいホームページ「ハッ場ダムを考える会—利根川水系脱ダム宣言」を開設しました。

ハッ場ダム問題を様々な視点から検証した資料、イベントなどの最新情報をアップしていきますので、アクセスしてみてください。

現在、「ハッ場ダム」をキーワードに検索すると、「ハッ場ダム工事事務所」がトップ、2番目に会のホームページが来ます。クリックする方が多ければ多いほど順位が上がり、順位が上がればそれだけ読む人が増えます。税金をふんだんに使った国交省のホームページを抜くのは容易ではありませんが、内容の充実度では負けないつもりです。ハッ場ダムの問題がより広く知られるように、どうぞいっぱいクリックしてください！

国交省のホームページは見てね。ハッ場ダムのホームページも見てね。



《市民オンブズマン、立ち上がる》

嶋津暉之さんが朝日新聞の「私の視点」に「八ッ場ダム 必要性の徹底検証を求める」を投稿したのがきっかけとなり、全国市民オンブズマンが八ッ場ダム問題に取り組むことになりました。

市民の立場に立って行政の“見張り番”役を担ってきたオンブズマンは、今までも談合、カラ出張などの問題に取り組んできました。この記事を読んだ弁護士らが「八ッ場ダム計画は大きな政策的な課題。なんとかしなければ」と、「首都圏のダム問題を考える市民と議員の会」などの市民団体に呼びかけました。3月21日に第一回の話し合いが行われ、「八ッ場ダム住民訴訟準備会」が発足しました。

八ッ場ダムに関係する首都圏一都五県がいっせいに住民監査請求と住民訴訟を起こすためには、各地の市民の幅広い支援が必要だということです。今後の動向については、その都度会報でお知らせしていく予定です。

《会費の納入について》

事務作業の都合もあり、会費をお支払いいただいた方にも郵便振替用紙が同封されています。どうかご了承ください。

アメリカから、ダム撤去の専門家を招いての会議が、名古屋(3/28)と長野(3/27)とありまして。事務局も手分けして去掛け予定です。

ダム建設が中止になっても心配することはありません。ダム撤去という新事業がありますから。という発言もありました。

つんつん!!
交代の時間には



我家の
食堂の出窓の外。
つせんの中に野鳥が(巣を作り、
代わる代わる卵を暖めては渡)

● 首都圏各地に市民の拠点があります ●

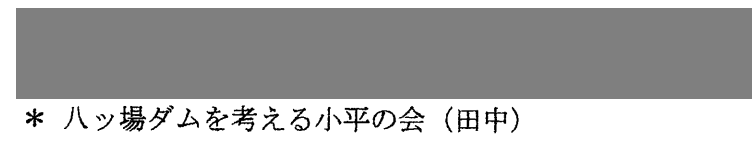
* 首都圏のダム問題を考える市民と議員の会



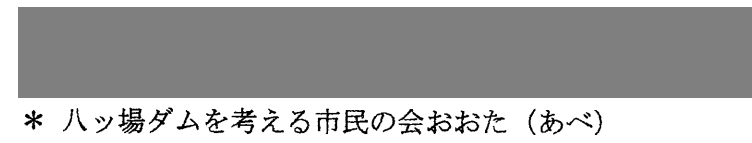
* 八ッ場ダムをストップさせる埼玉の会 (藤永)



* 八ッ場ダムを考える千葉の会 (北澤)



* 八ッ場ダムを考える小平の会 (田中)



* 八ッ場ダムを考える市民の会おおた (あべ)



“みんなでハツ場を歌って歩こう会”

日時： 2004年5月22日(土)～23日(日)

場所： 吾妻溪谷周辺
最寄り駅：JR吾妻線「川原湯温泉駅」

日程： 1日目
川原湯温泉「敬業館みよしや」宿泊
夕食後、午後7時頃より大広間で
山西哲郎トーク「勤楽—心も体もさわやか健康づくり」
笠木透“ミニコンサートのタベ”


2日目
午前9時 川原湯温泉駅前集合
(高崎方面より来る方は、高崎駅7:25発、温泉駅8:42着)
「新緑の吾妻溪谷を歌って歩こう」
午後2時頃 旅館で解散

参加費： 両日参加の場合
12,000円(宿泊、2日目の昼食込み)

2日目のみ参加の場合
3,000円(昼食込み)

お申込み： 
みんなでハツ場を歌って歩こう会実行委員会事務局

締め切り： 5月10日 (宿泊は定員100名までです)

お問合せ： 群馬大学教育学部 山西哲郎研究室


新緑の吾妻溪谷イベント情報

【会員年じゅう募集中】

年会費 (秋の総会から次の総会まで) / 個人 2000 円、学生 1000 円、団体 3000 円、
会員には年 4 回の会報をお届けします。

《カンパしてもいいなという方は・・・》 ぜひ下記にお願いします。

郵便振替口座番号 00550-2-32681 (加入者名：ハツ場ダムを考える会)

発行：ハツ場ダムを考える会